



こども家庭庁
「令和5年度NPO等と連携したこどもの居場所づくり支援モデル事業」

オンライン居場所事業報告

2025/2/14

本事業について

こども家庭庁の「NPO等と連携したこどもの居場所づくり支援モデル事業」に採択いただき、「子どものオンライン居場所事業」として実施。

こども家庭庁「NPO等と連携したこどもの居場所づくり支援モデル事業」公募の概要

目的：

NPO等の民間団体が創意工夫して行う居場所づくりや子どもの可能性を引き出すための取組の検証に係る経費を補助することにより、こどもの居場所に対して効果的な支援策を明らかにすること

公募する事業：

都道府県又は市町村及び社会福祉法人等が実施主体となって、居場所づくりに係る検討を行う事業を公募する。なお、社会福祉法人等に対して公募する事業は、「全国展開しているオンライン居場所の提供及び支援の実施」を行う事業のみとする

本事業について

- 事業名：** 子どものオンライン居場所事業
- 実施目的・内容：** キッズドアが支援している困窮子育て家庭の子どもを対象としたオンライン居場所の運営を行う
- 国庫補助協議額：** 500万円
- 実施期間：** 令和5年7月から令和6年3月
- 実施内容：** 以下を実施。

現状・ニーズ調査



オンライン居場所の試行



オンライン居場所の在り方の
検討とレポート

事業説明

事業目的

コロナウイルスの蔓延を契機に、オンライン上の居場所が作られ始めている。しかし、当団体が「ファミリーサポート事業」にて支援対象としている困窮子育て世帯にアンケートを行ったところ、**パソコン等のIT機器やインターネット回線の整備が不十分な家庭が存在し、オンライン居場所への参加にハードルがある**ことがわかっている。

本事業では、**困窮子育て世帯の子どものインターネット接続環境を確認の上、ニーズに合ったオンライン居場所のあり方や運営方法等を検討すること**を目的とする。

キッズドア・ファミリーサポート <https://kidsdoor-family-support.jp/>

全国の困窮子育て家庭に、ご登録いただき、LINEやメールで、①必要な情報をお届けする情報支援 ②寄付で集めた食料品や生活用品などをお届けする物資支援 ③収入を上げるための就労支援などを行っている。 2023年8月末で登録者数は約3300世帯

仮説

以下の二点の仮説を検証した。

- オンライン居場所は不登校の児童を対象にしたものが多く実施されている。しかし、不登校の児童以外にもニーズがあるのではないか。そこで、不登校を対象としたメタバースを活用した散見されるタイプの実施形態以外で試行を試みた。
- さらに、対象を困窮家庭に限定した。昨今、IT体験の格差が指摘されているが、その様な困窮家庭にオンライン居場所を通じてIT体験を提供することで、困窮家庭出身者の未来の可能性を広げることが出来るのではないか。

取り組み

（１）現状・ニーズ調査

- キッズドア・ファミリーサポート事業の受益者にアンケート調査を実施
- ネット接続環境、オンライン居場所のニーズ、希望する活用方法等を把握

（２）様々なオンライン居場所の試行

- 調査をもとに、ニーズが高い内容のオンライン居場所を実際に試行

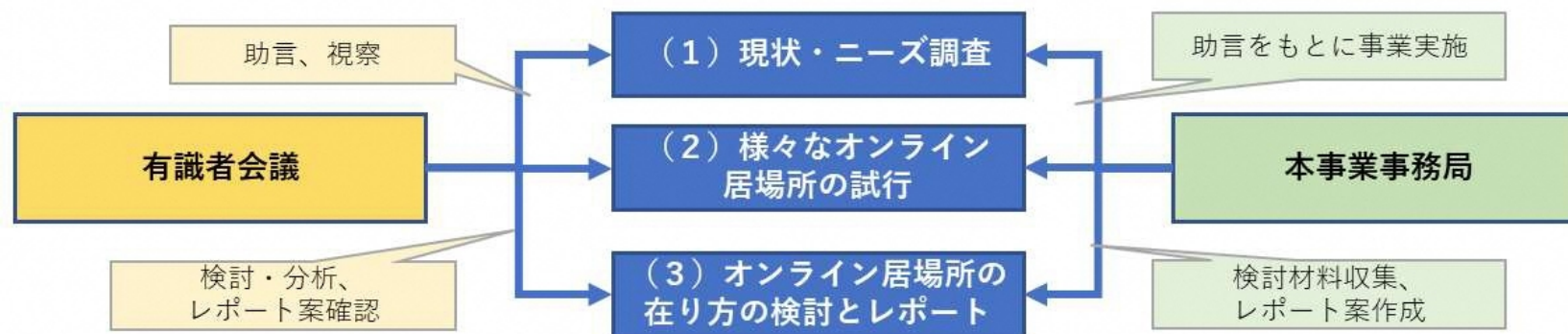
（３）オンライン居場所の在り方の検討とレポート

- 試行により得られたデータを元に検討
- 事業報告会を行い成果発信

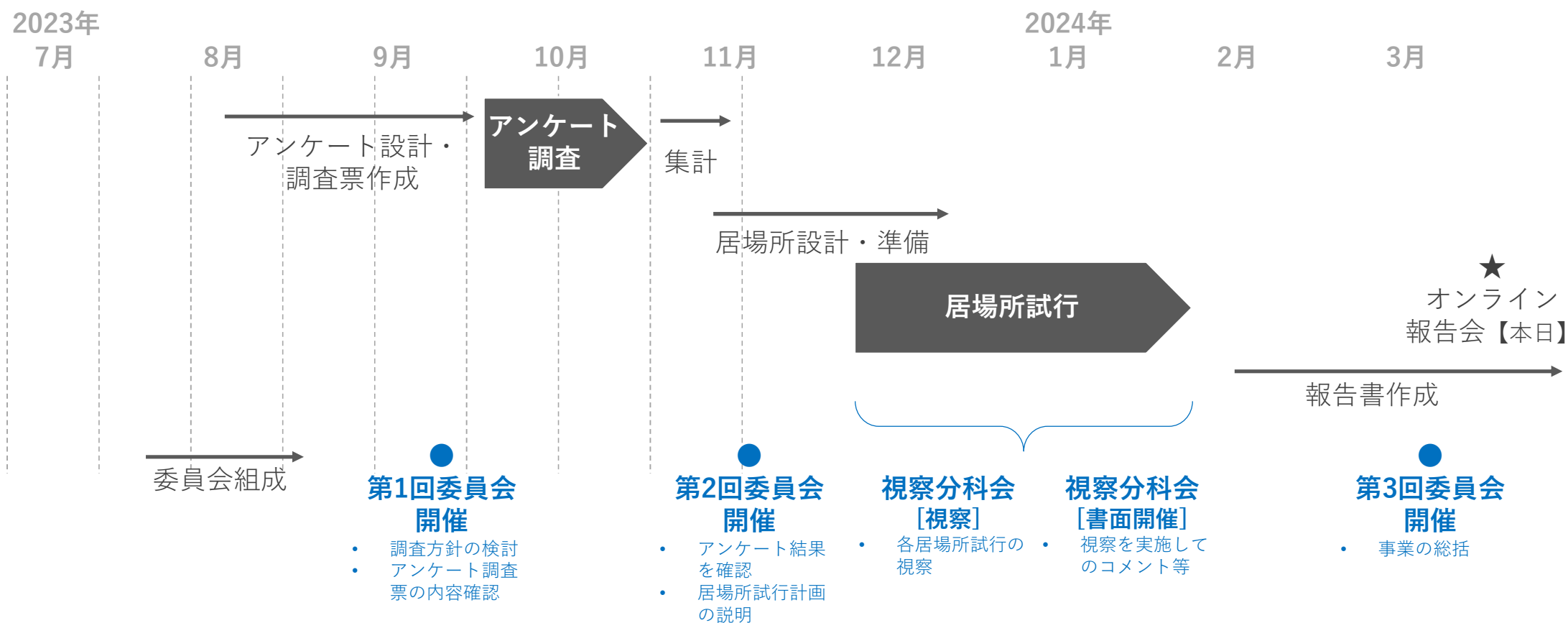
有識者会議の設置

本事業の実施にあたっては、有識者の助言を得ながら実施する。有識者会議・意見交換・視察等を5回程度開催する。本事業における有識者会議のメンバー及び位置づけは以下のとおりである。

	氏名（敬略称）	所属	役職
1	及川 恵	東京学芸大学教育学部	准教授 ◎委員長
2	太田 可奈	株式会社アントレキッズ・株式会社まなぶや	事業責任者・取締役
3	末廣 優太	特定非営利活動法人みんなのコード Hub div. コンピュータクラブハウス加賀	事業部長・館長
4	森田 英仁	墨田区 子ども・子育て支援部 子育て政策課	子育て政策担当主査
5	渡辺 由美子	認定NPO法人キッズドア	理事長



スケジュール



アンケートの報告

調査概要

■目的：オンライン居場所利用に関する保護者や子どもの意向、家庭の経済状況やデジタル環境等の把握、困窮家庭ならではのオンライン居場所へのニーズや懸念点の把握

■対象及び回答数：

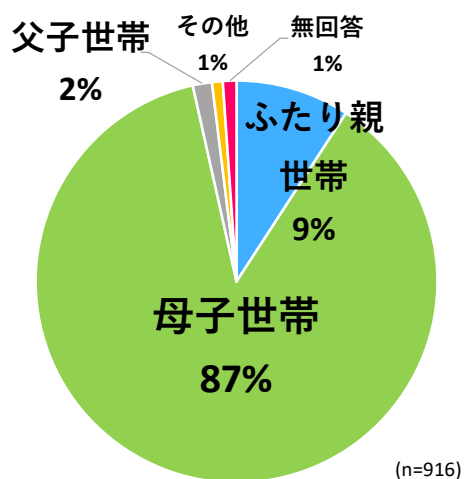
- キッズドア・ファミリーサポート登録世帯の保護者（n=916）
- キッズドアの学習会や奨学金等を利用している高校生世代（n=140）

■期間：2023年9月25日～10月10日

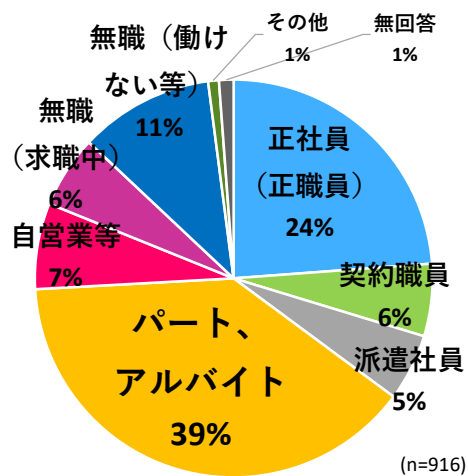
回答者の基本属性（保護者）

- 母子世帯が約9割。居住地は南関東を中心に全国に広がる。
- 現在の就労形態は「パート、アルバイト」が約4割と最多であり、半数が非正規雇用。
- 所得200万円未満が半数超、300万円未満が8割超を占める。
- 小学校高学年、中学校、高校の年齢の子どもがいる家庭が多い。

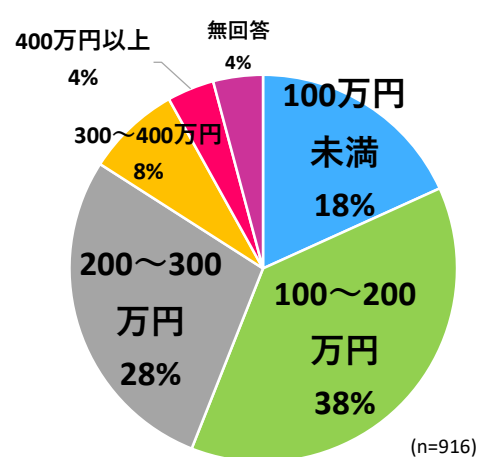
世帯構成



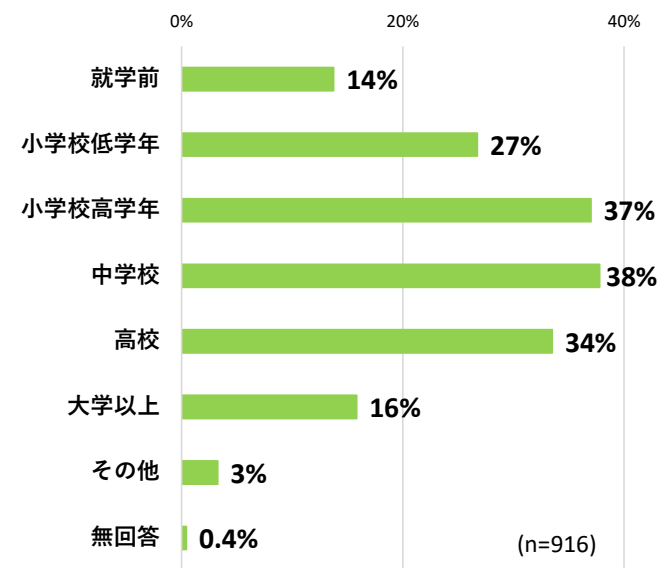
現在の就労形態



2023年の世帯所得（予想）



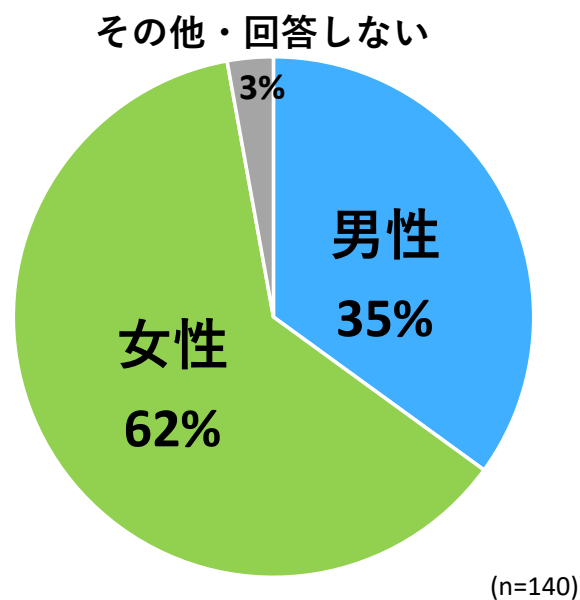
子どもの学校種



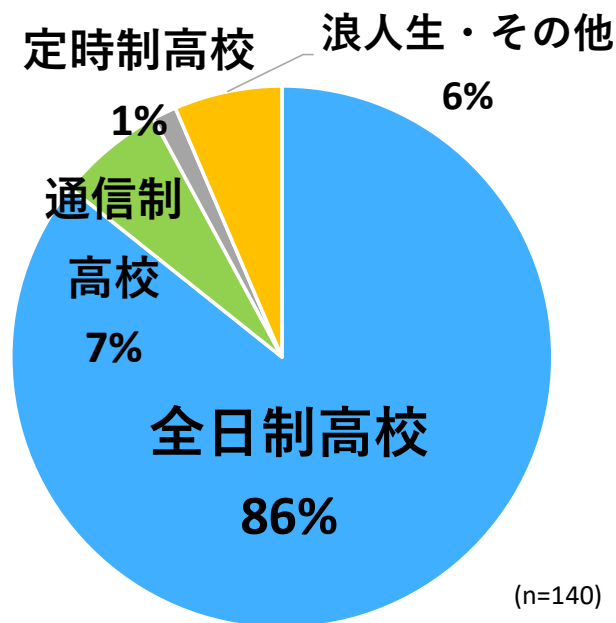
回答者の基本属性（高校生世代）

- 女性が62%、男性が35%。
- 全日制高校に通う高校生が86%、通信制高校が7%、定時制高校が1%。
- 家庭の経済的状況に対し、68%が苦しさを感じている（「苦しい」と「大変苦しい」の合計。）

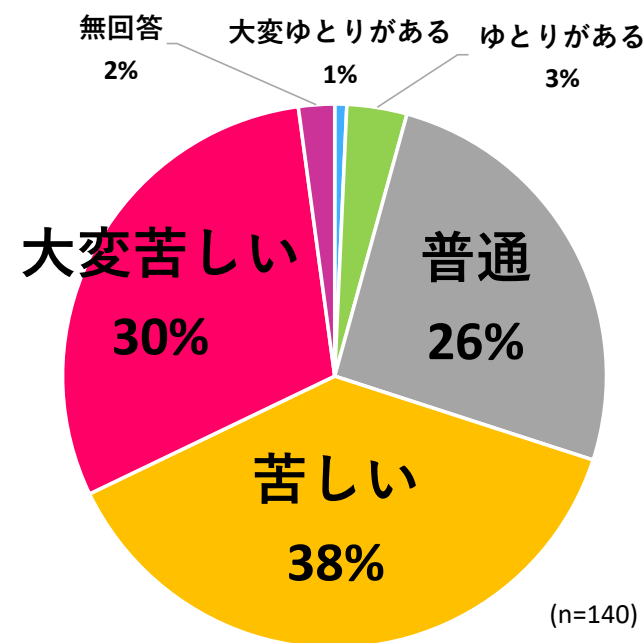
性別



通っている学校



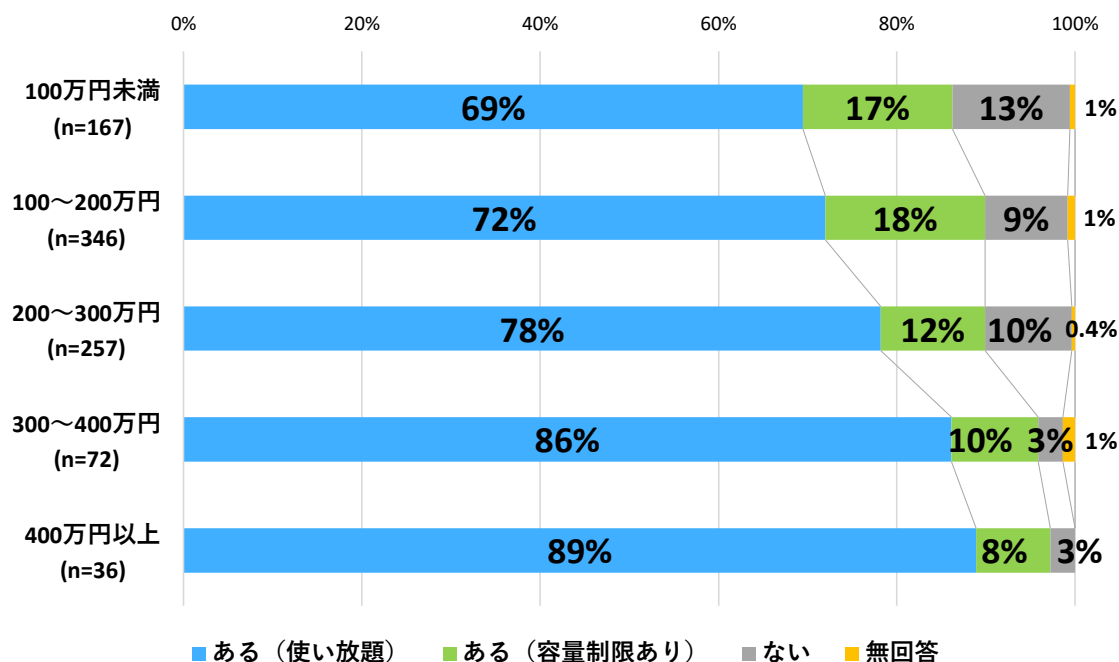
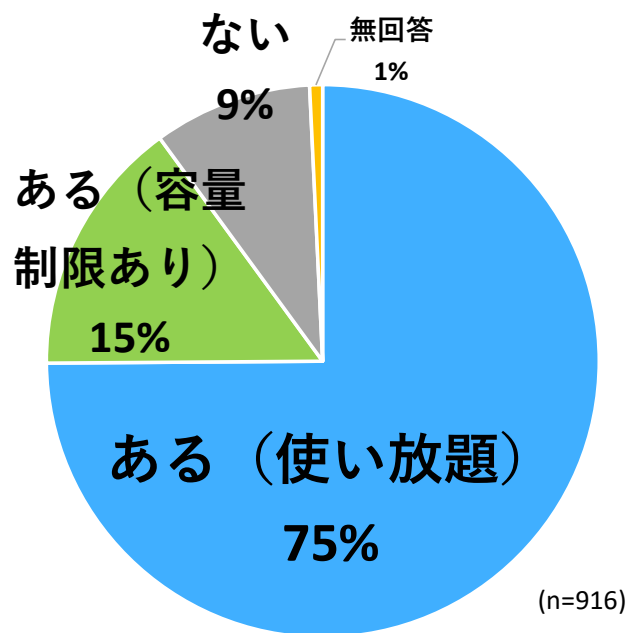
家庭の経済的状況



調査結果① 家庭のインターネット環境

- 家庭のインターネット回線は「ある（使い放題）」が75%と最多だが、「ない」との回答も約1割。
- 所得が低い層ほどインターネット回線が無い割合が高い。

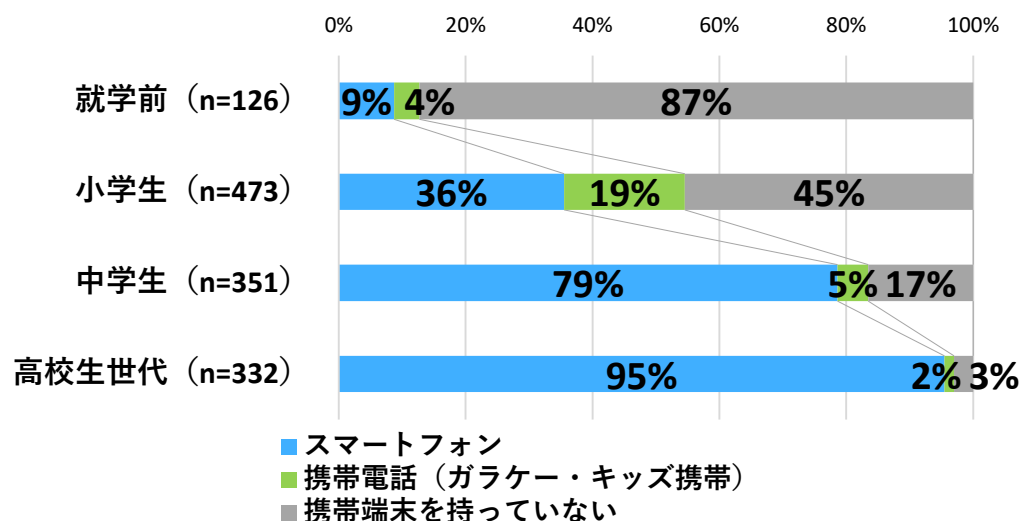
家庭のインターネット回線の有無（全体・所得別）



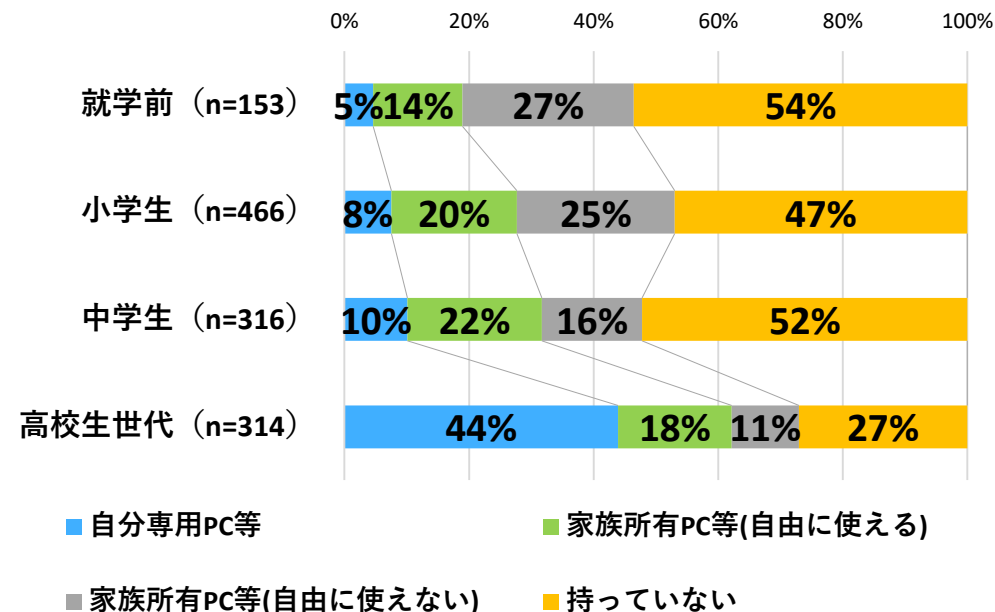
調査結果② 子どもの所有するデジタル端末

- スマートフォンを持っているのは小学生36%、中学生79%、高校生世代95%。
- 自由に使えるPCを持っているのは、小学生28%、中学生32%、高校生世代62%。
- 中学生と高校生世代では、所得が高い層ほどスマートフォン所持の割合が高い。

子どもの携帯端末の所持状況



子どものPC等の所持状況

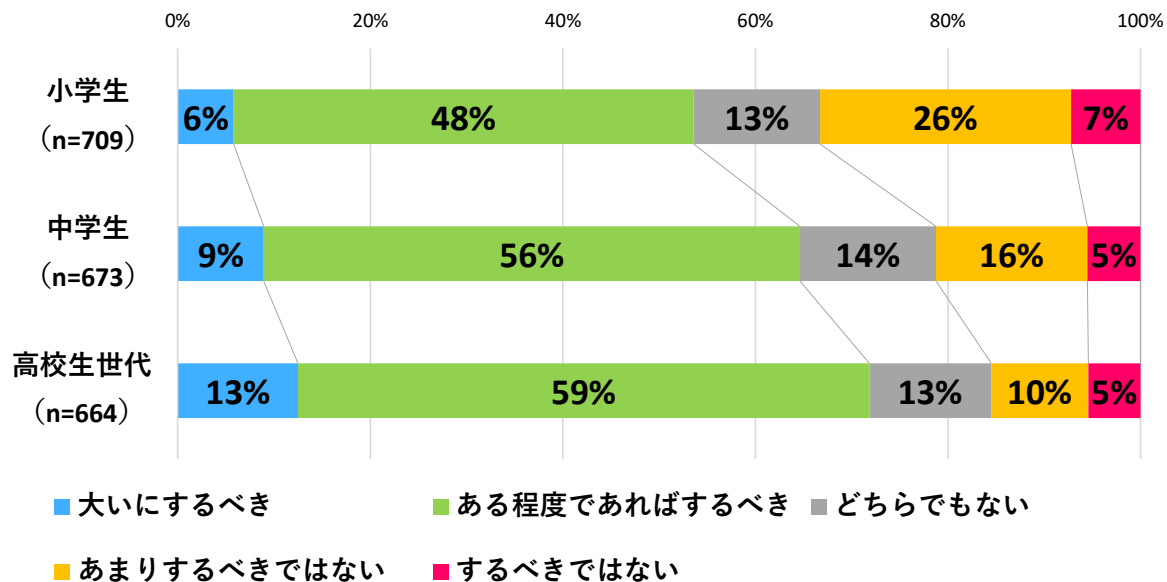


調査結果③

子どものデジタル端末利用に対する保護者の考え

- 子どもの年齢を問わず「ある程度であればすべき」という意見が最多。子どもの年齢が上がるほど肯定的な意見が増加。
- デジタル端末利用に否定的な理由として多いのは、ネット上のトラブルや不適切な情報。

子どもの年齢に応じたデジタル端末利用等に対する考え



すべきでないと考える理由（トップ3）

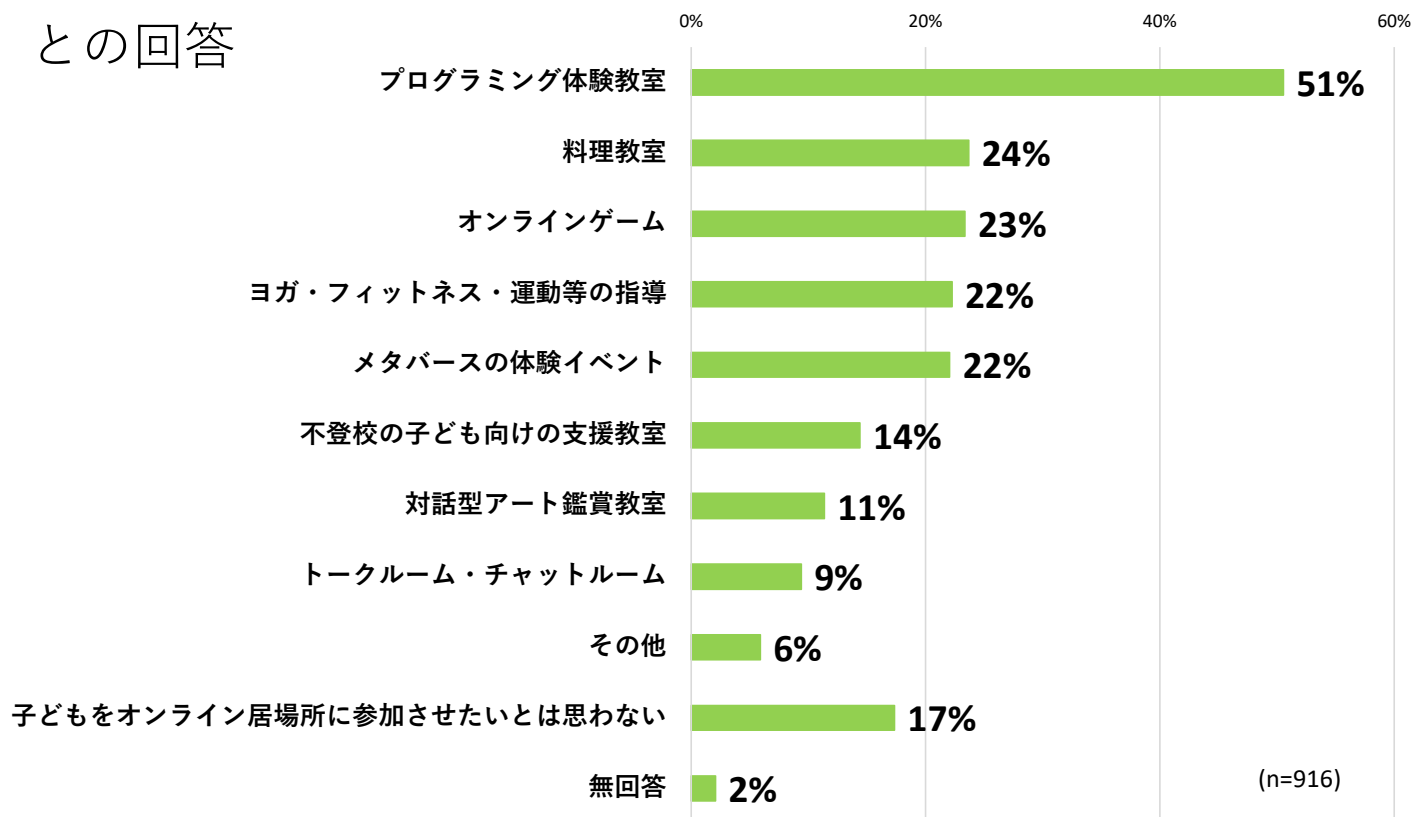
- 【1位】 ネット上のトラブルに巻き込まれるかもしれない（72%）
- 【2位】 不適切な情報に触れてしまう（69%）
- 【3位】 目が悪くなる（67%）

調査結果④

子どもを参加させてみたいオンライン居場所

- 「プログラミング体験教室」が約半数と最多。
- 「参加させたいとは思わない」との回答は17%。

子どもを参加させてみたいオンライン居場所
(3つまでの複数回答)



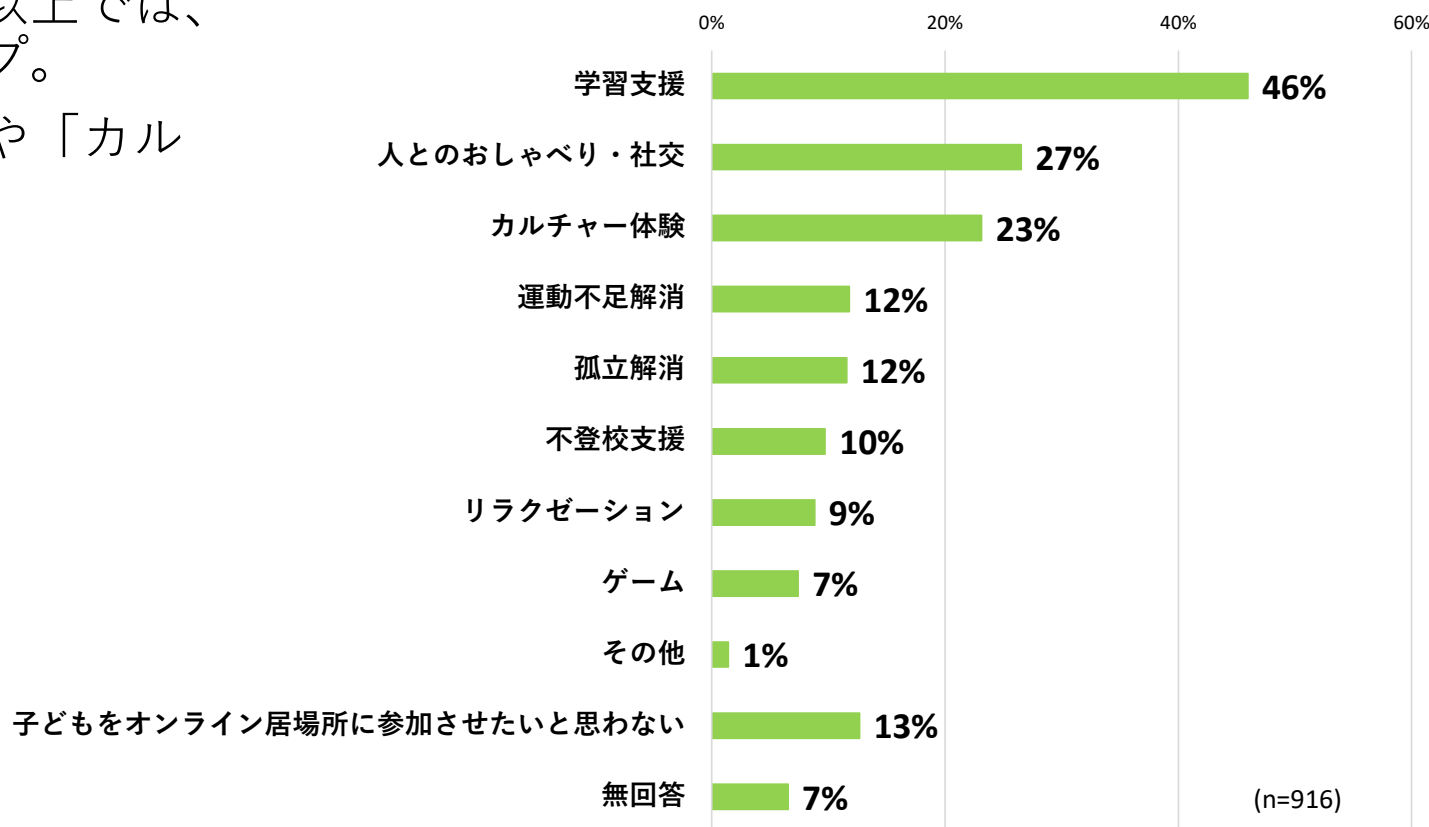
(n=916)

調査結果⑤

子どものオンライン居場所に期待する効果や役割

- 保護者の約半数が「学習支援」を期待。
- 子どもの年齢別でも、小学校以上では、いずれも「学習支援」がトップ。
- 「人とのおしゃべり・社交」や「カルチャー体験」との回答も多い。

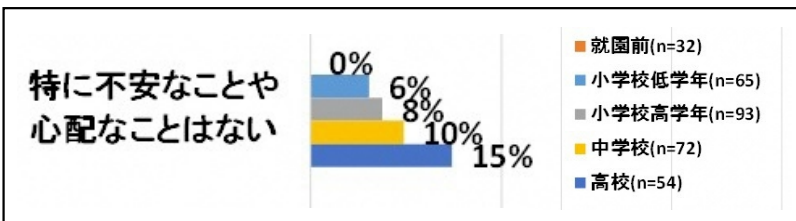
オンライン居場所に期待する効果や役割
(2つまでの複数回答)



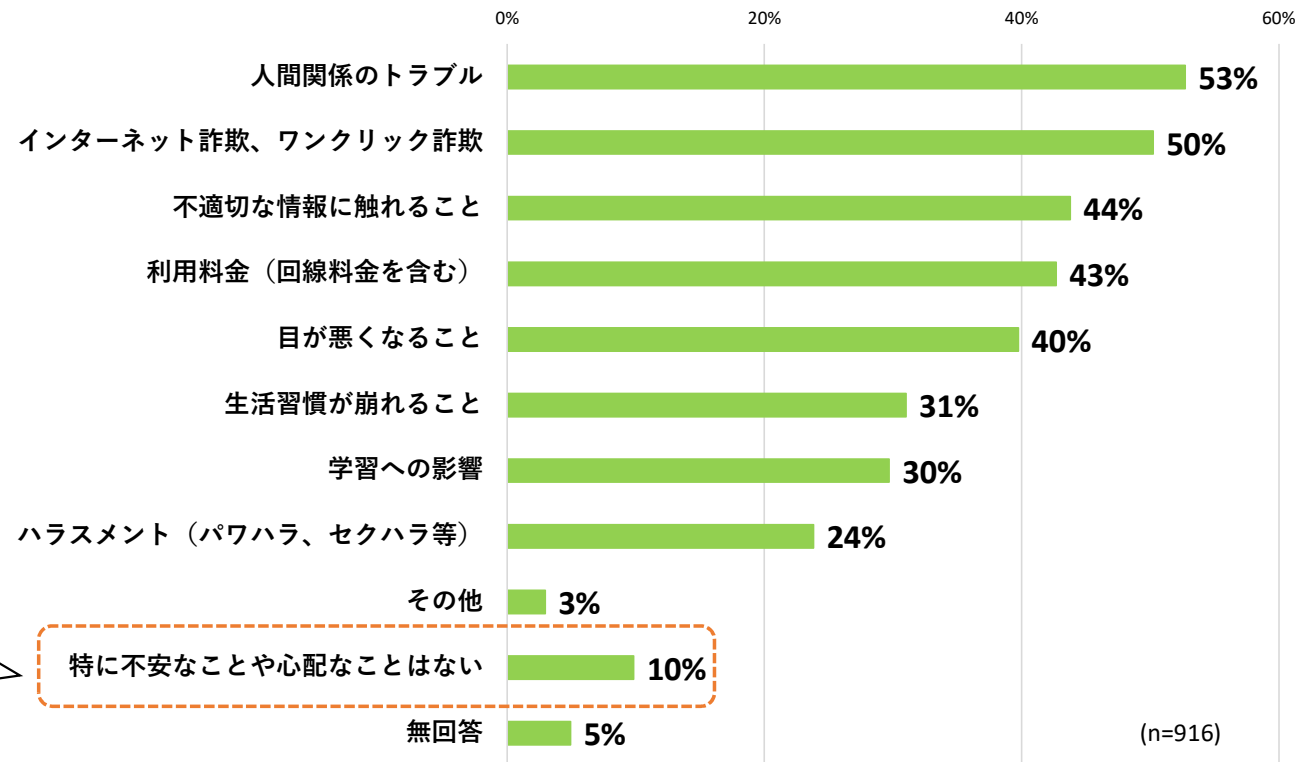
調査結果⑥

子どものオンライン居場所利用に関する不安や心配

- 「人間関係のトラブル」と「インターネット詐欺、ワンクリック詐欺」が半数以上。
- 不適切な情報や利用料金、視力低下を懸念する回答も4割程度。
- 特に不安や心配はないとの回答は1割。子どもの年齢が低いほど回答割合も低い。



子どものオンライン居場所利用に関する不安や心配（複数回答）

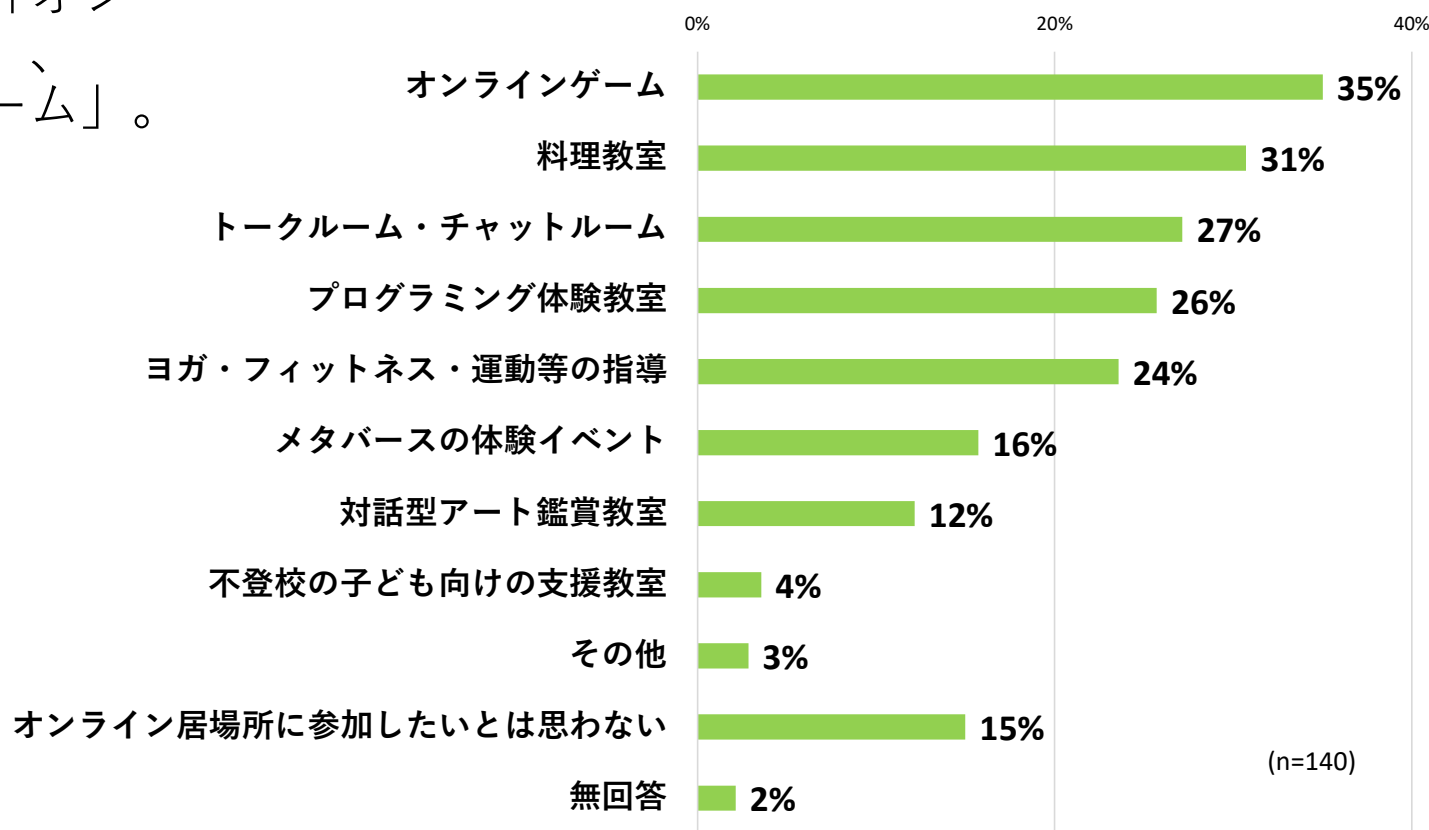


調査結果⑦

高校生世代が参加してみたいオンライン居場所

- 高校生世代が参加してみたいと思うオンライン居場所の上位は、「オンラインゲーム」、「料理教室」、「トークルーム・チャットルーム」。

参加してみたいオンライン居場所（3つまでの複数回答）

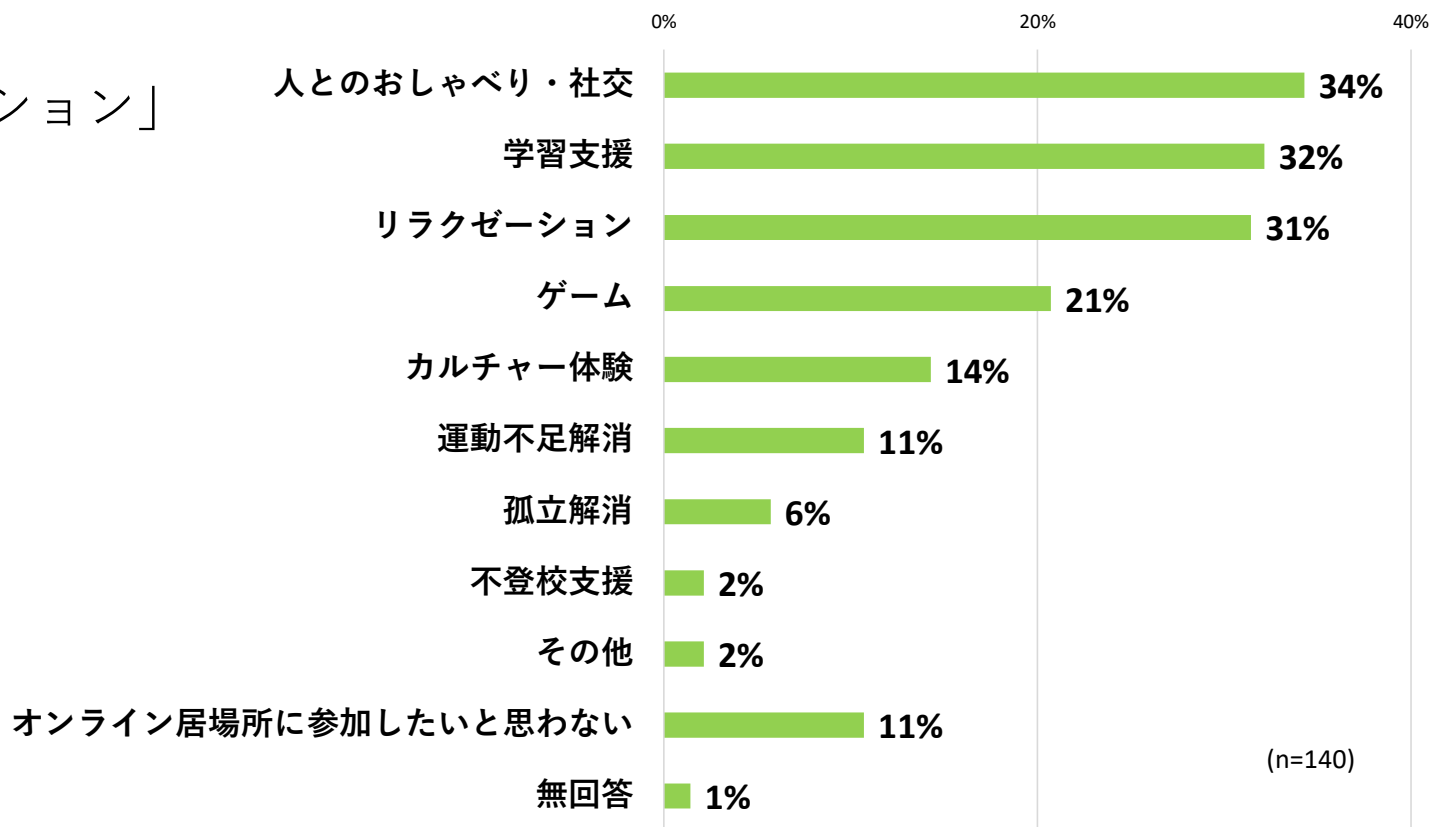


調査結果⑧

高校生世代がオンライン居場所に期待する効果や役割

- 高校生世代がオンライン居場所に期待する効果や役割のトップは「人とのおしゃべり・社交」。
- 「学習支援」、「リラクゼーション」も3割を超える。

オンライン居場所に期待する効果や役割
(2つまでの複数回答)

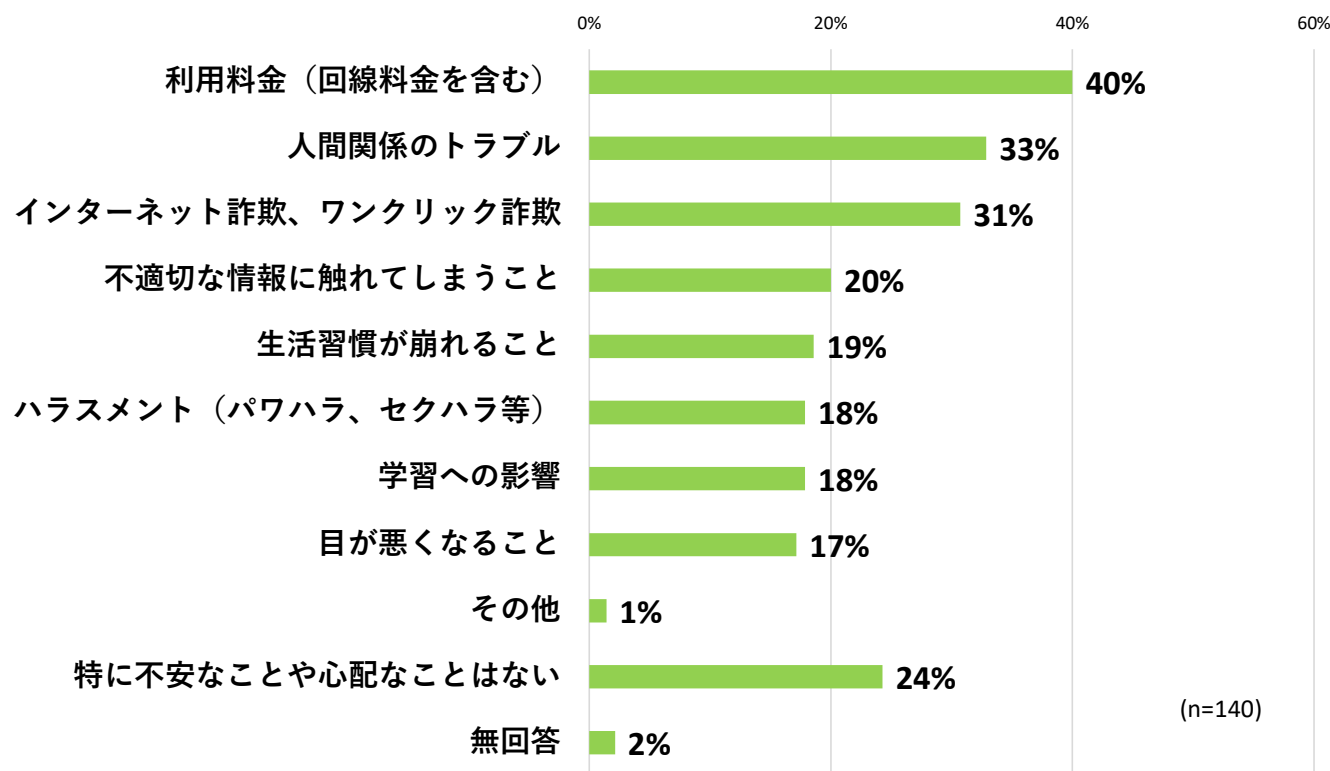


調査結果⑨

高校生世代のオンライン居場所利用に関する不安や心配

- 高校生世代で最も多かったのは「利用料金（回線料金を含む）」。
- 「人間関係のトラブル」、「インターネット詐欺、ワンクリック詐欺」も3割超。

オンライン居場所利用に関する不安や心配（複数回答）



調査結果⑩ 高校生世代と保護者の回答の違い

- 高校生世代の子どもがいる保護者と、高校生世代の子ども自身では、参加してみたい/させてほしいオンライン居場所や期待する効果・役割が異なる。
- 不安や心配は保護者と子どもで共通する部分が多いものの、「特に不安や心配はない」との回答は子ども24%に対し、保護者は15%に止まる。

参加してみたいオンライン居場所

	高校生	保護者
1	オンラインゲーム (35%)	プログラミング体験教室 (39%)
2	料理教室 (31%)	メタバースの体験イベント (24%)
3	トークルーム・チャットルーム (27%)	料理教室 (20%)

期待する効果や役割

	高校生	保護者
1	人とのしゃべり・社交 (34%)	学習支援 (43%)
2	学習支援 (32%)	人とのしゃべり・社交 (30%)
3	リラクゼーション (31%)	カルチャー体験 (20%)

不安や心配

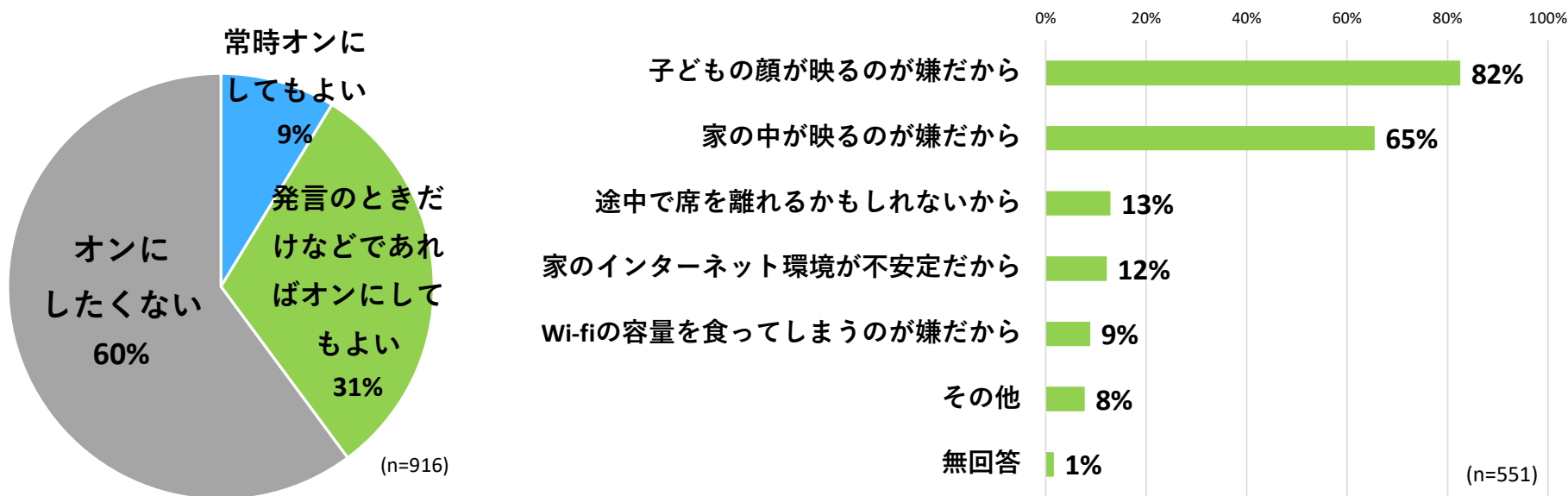
	高校生	保護者
1	利用料金 (回線料金を含む) (40%)	人間関係のトラブル (44%)
2	人間関係のトラブル (33%)	利用料金 (回線料金を含む) (41%)
3	インターネット詐欺、ワンクリック詐欺 (31%)	インターネット詐欺、ワンクリック詐欺 (39%)

調査結果⑪

オンライン居場所参加時のカメラのON/OFF

- 「カメラをオンにたくない」との回答が6割。
- その理由としては、「子どもの顔が映るのが嫌」が82%、「家の中が映るのが嫌」が65%。
- 高校生世代の子ども自身への調査でも同様の傾向が見られた。

子どもがオンライン居場所でカメラをオンにすることについてとオンにたくない理由



調査結果⑫

オンライン居場所に関する意見や感想（自由記述）

- 塾や習い事に通う友達が増え、孤立を感じる事もあるようなので、ぜひオンライン居場所のようなものに参加させたいです。
- 実生活では出会えない人達との出会いがあるのがオンラインでの最大のメリットだと思います。家庭だけでなく、ある程度のルールを運営上で決めれば参加したいと思う人も増えると思います。
- 親が見ていないときの利用方法について少しの不安があるがデジタル化の昨今、新たなツールとして子供に使わせてみたい。
- 英語やプログラミングなど学べたら素敵だと思います。
- 不登校を経験し現在は通信制高校に通っています。そのような状況を理解し、サポートしてもらえるような居場所であれば良いと思います。

調査結果⑬

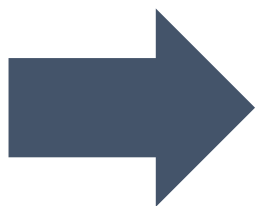
オンライン居場所に関する意見や感想（自由記述）

- たまに参加するのであればいいので、一回完結型で学習に繋がるものでしたら賛成ですが、**エンタメや人間関係の繋がりが構築されるものは、運用の仕方によりトラブルの元になったり、依存することになりそうなので、利用には慎重になります。**
- 良い事だと思いますが、マイナス面ばかり気にしてしまいます。**顔や名前などがバレて悪い様に拡散されたりして住所や学校がバレたりしないか不安**です。いい人ばかりではないと思う。
- まずは、**ネットを使うことの危険性や気をつけることを、子供に教えていただきたい**です。家庭でも話してはいますが、第三者から聞くと、素直に聞くかもしれないです。
- 学習支援や体験等であれば参加させたいが、**パソコンもwi-fi環境もなく、スマホでは画面が小さくギガも足りないと思うので現実的に不可能**と思います。
- wi-fi環境が、私の携帯のテザリングのみとなるので、**FREEwi-fiやそれに見合う援助がないと、とても厳しい。**

調査から得られた試行への示唆

■ 調査からは本事業でのオンライン居場所の試行について以下の示唆が得られた。

- 子どもが低年齢であるほど、保護者はオンライン居場所のリスクを懸念。小学生については保護者同伴のオンライン居場所、中学生以上については子ども単独で参加できるオンライン居場所がよいのではないか。
- 保護者は学習要素や体験要素を含むオンライン居場所を希望。
- 高校生世代と保護者ではオンライン居場所への希望が異なる。高校生世代はゲームやコミュニケーション主体のオンライン居場所も希望。



小学生・中学生

学びや体験要素のあるオンライン居場所（小学生は保護者同伴）

高校生以上

対人コミュニケーションスキル向上を目的とした相互コミュニケーションのオンライン居場所

居場所試行

実施オンライン居場所

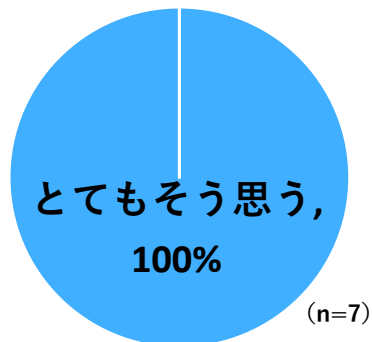
	名称	開催時期	カテゴリー	説明	対象	参加者数	案内配信数
1	オンラインお料理教室	11/26(日) ・ 13～14時	体験学習	お料理研究家と一緒にチョコレートサ ミを作る	小学生と その保護者	18 (9組)	309
2	プログラミング教室	12/2(土) ・ 13～14時 ・ 15～16時 12/10(日) ・ 13～14時 ・ 15～16時	体験学習	マイクロビットを使って簡単なプログラミ ングを行う（マイクロビットは事前に配 布）	小中学生	168	2,208
3	ぶちキャリア座談会～センパイに大学 のこときいてみよう～	12/21(木) ・ 19～20時	キャリア・コ ミュニケーショ ン	高校生に、大人や先輩大学生が進学等の 相談にのる	高校生	1	30
4	オンラインで推しを語ろう	1/16(火) ・ 19～20時	コミュニケー ション	カードゲーム「推しの尊さを語る君と知っ たかぶりの私へ」を行う	高校生	3	1,745
5	子どもヒヤリング～君を感じる嫌なこと、 困ったこと、また、初めて知ったこと、 好きになったことなど聞かせて～	1/20(火) ・ 19～20時	コミュニケー ション	キッズドアの臨床心理士・居場所スタッフ が悩みを聞く	中学生	5	120

実施後アンケート・視察コメント①

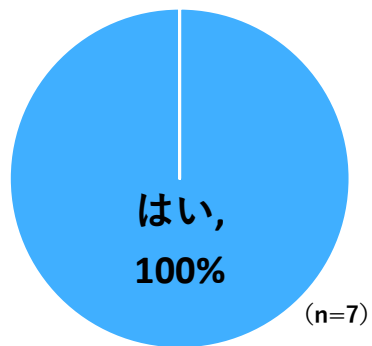
オンラインお料理教室

【実施後アンケート・参加者からのコメント】

参加して楽しかったか



また参加したいか



- 短時間でお菓子作りができて楽しめました。初めて作ったけど簡単だったので一人で作ることもできると思いました。
- オンラインでできてすごく便利だった。家で気軽にできて、よかった。初めて作ったお菓子で楽しかった。
- 子供とすごく特別な時間を過ごせました。オンライン教室というものが初めてだったので、ドキドキしていましたが、子供が楽しかったと言ってきて参加できてよかったなと思いました。

【視察した委員からのコメント】

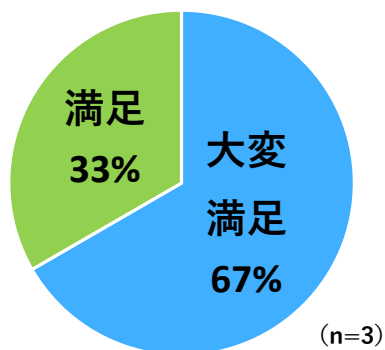
- 1時間という短い時間だったが、構成や進行がしっかりしていたと感じた。お菓子作りを中心にしつつ、その間に講義という形でバランスがよかった。
- 作業時間も適度に短く、小学生が集中を保てていたように思う。途中の作業が必要のない時間の世界のお菓子トークも面白く、子どもたちは惹きつけられているようだった。
- 今回の料理教室の内容であれば、10倍以上のキャパでできそうな印象を受けた。オンラインでの活動とは、それほどまでに可能性に溢れているのだと思う。

実施後アンケート・視察コメント②

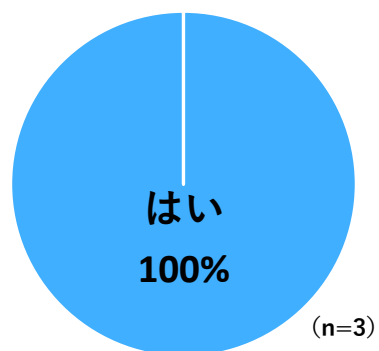
ダウトは誰だ！？みんなで推しを語ろう！

【実施後アンケート・参加者からのコメント】

満足度



また参加したいか



- スタッフの方も含め、今日集まった人たちと波長が合い、楽しく語り合いをすることができたから。
- 全体的にとっても楽しかったが、人数が3人とあまり多くなかったのが少し残念だったため。
- 推しを語れて、とても楽しかったです！！皆さんの推しを聞くうちに、気になったものもいくつかあって、自分の興味の幅が広がりました。元からボードゲームが好きだったので、今回の機会は私のためにあるのかと思うくらいでした（笑）ありがとうございます。

【視察した委員からのコメント】

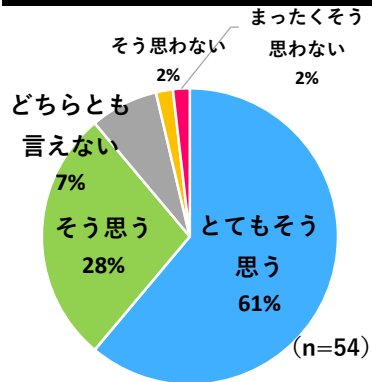
- 最初は緊張気味だった参加者が、推しを語り合いながら打ちとけていく姿が印象的であった。
- 運営側が進行をきちんと管理しており、見知らぬ高校生同士が安心して語り合える場をオンラインで提供した点に意味がある。
- 運営においてzoomの使い方（BGMなど）を工夫することで、子供達の居心地の良さや活動への参加意欲をもっと高めることができるのではないかな。

実施後アンケート・視察コメント③

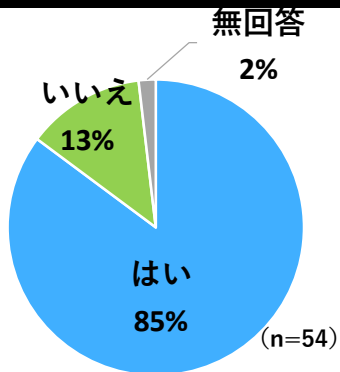
micro:bitでプログラミングに挑戦！

【実施後アンケート・参加者からのコメント】

参加して楽しかったか



また参加したいと思うか



- 自分で考えたプログラムをコンピューターに写せることが嬉しかった。
- ありがとうございました！！学校でこのような授業がないためとても勉強になりました。
- グループに分かれてオンラインでつながった時に、自分と同じくらいの年齢の全然知らない子達がいて、でも日本の違う所に住んでいてそれでも知り合えた事に感動した。もっとコンピューターを勉強したいと強く思えた。

【視察した委員からのコメント】

- プログラミングを題材に選んだ点が素晴らしい。今回の試行の対象者である小・中学生は学校でプログラミング教育が必修化されていて、習い事でも人気がある分野だと思う。十分な教育機会が提供されない子どもたちに機会を提供するという点で、とても効果的であった。
- 講師が身近な例を挙げてくれ、日常生活とプログラミングの技術を関連付けることができたように思う。教室が終わった後に、自分で応用してみようという意欲につながったのではないかな。

居場所を試行してみて

本事業からわかったこと

経済的に困窮している家庭に対しては、**オンライン環境を整えるところからの支援が極めて重要**

- 家庭のインターネット環境への支援（使い放題のWi-Fiを）
- 家庭のデジタル端末への支援（子どもが自由に使えるPCを）

不登校支援以外の、**体験の格差を補うような支援も効果的**

- 学校種に応じた多様なオンライン体験が重要（小学生以下には親子参加のオンライン体験を、中高校生以上には子どもの自主性を育むオンライン体験を）
- 学び要素＋コミュニケーション要素の複合的な体験（子どもの体験格差はオンラインでも補うことができる）

経済格差を、オンライン上の学びや体験の格差につなげないようにするための支援が、今、まさに求められている

本事業委員からのアイデア

オンライン居場所の在り方について、委員からアイデアが寄せられました。

- オンラインやデジタルを体験していないと、自分のデジタルスキルを適切に把握できない。早期からオンラインやデジタルの体験をさせることが重要。
- 身近なテーマ（例：食）から、多様な体験につなげるオンライン居場所の設計が重要。
- オンライン居場所で、親や学校の先生ではない「大人」（例：子ども支援の専門家や子ども支援に従事するスタッフ）が子どもを支援することの有効性がある。
- 初対面同士の参加者同士の心理的安全性の確保が重要（カメラオフへの配慮など）
- 遠くの人とつながることができるというオンラインの強みを活かすべき。地方在住の子どもと都市部在住の子どもをつなぐオンライン居場所の有効性。
- オンラインを知らない親が子どもオンライン利用を妨げている可能性あり。保護者向けのオンライン・リテラシー向上支援が重要。

